

『犬と猫の耳科診療』（1刷） 訂正とお詫び

ISBN978-4-89531-582-1

下記の箇所に誤りがございました。訂正するとともに深くお詫び申し上げます。

株式会社 緑書房

訂正箇所		誤	正
p. 390 図1 キャプション	A	耳道内全体の浸軟と膿性滲出液の貯留，耳道の一部のびらんを認めた	耳道内には膿性滲出液が充満していた
	B	洗浄中の所見。左水平耳道内には細胞屑や毛が大量に貯留していた	耳道内を洗浄すると耳道をほぼ完全に塞ぐ結節が現れた
	C	鼓膜は肥厚・混濁し，正常構造がみられない。表皮面に著しいびらんを認めた	半導体レーザーで分割しながら鉗除を試みたが，耳道深部にまで及ぶ充実性病変のため内視鏡的な処置が不可能であった